

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.2) サブストーリークエスト

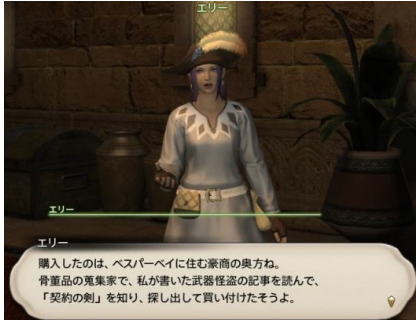


事件屋編

はじまりの予告

エリー： あなた、覚えている？ 先に届けられた予告状に書かれていた「契約の剣」。私は、あれから所在を追っていたのだけど……。ついに所在が明らかになったわよ！ それは、クルザスの名家が持つ、堅牢な金庫の中！……だけど、肝心の「契約の剣」は、なんと売却済み。購入したのは、ベスパーベイに住む豪商の奥方ね。骨董品の蒐集家で、私が書いた武器怪盗の記事を読んで、「契約の剣」を知り、探し出して買い付けたそうよ。もうすぐ、彼女の家に「契約の剣」が届くらしいわ。……フッフッフ、さっそく奥方に取材しにいかなくや！ただ、その前に……。彼女は気難しい人らしいから、ゴキゲンを損ねないように、手土産を用意しなければならないわ。キャンブ・ドライボーンの「ツツシ」さんの所に寄って、珍しいお花でも買って行きましょう！あなたも「あの事件屋」のお仲間なら、一緒にどうかしら？

エリー： キャンブ・ドライボーンではね、グーブーの亡骸から取れる、珍しいお花が買えるの。件の奥方も、気に入ってくれるといいんだけど……。



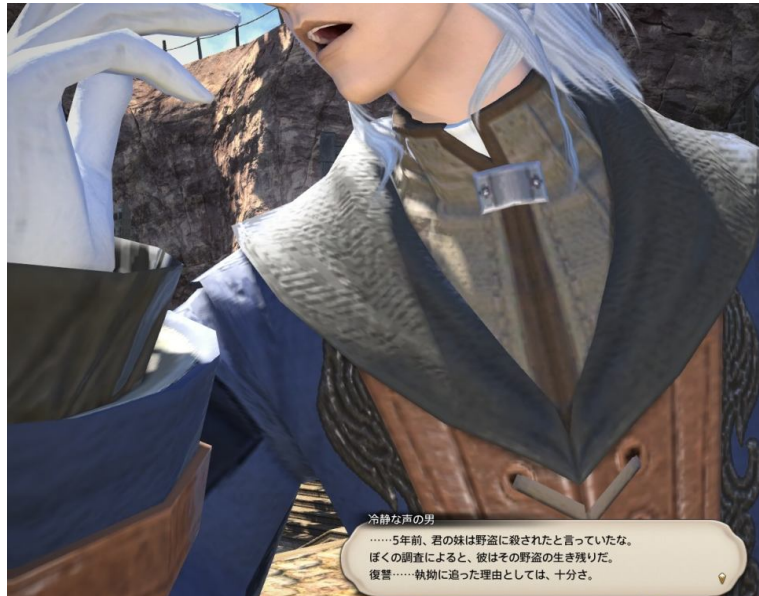
ツツシ： あら、「珍しい花」がほしいのね？ そうね、今の季節なら、アルジクラベンダーなんていかがかしら。500ギルよ。

????： ……そう、君だ。

狼狽した女： そんな……。彼を殺したのは、あなただったの！？

動揺した男： ちちち、違う！ そんなのでたらめだ！ 俺みたいない介の商人に、そんなことできるわけない！……そうだ、ア、アマルジャ族のしわざに決まってる！

冷静な声の男： アマルジャ族のしわざだって？ ……ありえないな。丸腰で崖下に逃げた彼を、追い詰める意味がない。それに、君はただの商人ではなく、弓術の経験者だ。君の左手の親指と小指の付け根の肉刺は、弓術士特有……。少なくとも数年間、鍛錬を積んでいたはず。……5年前、君の妹は野盗に殺されたと言っていたな。ぼくの調査によると、彼はその野盗の生き残りだ。復讐……執拗に追った理由としては、十分さ。これらの事実から導き出される結論は、ただひとつ。犯人は、君……そういうことだ。



動揺した男 : そ、そんな……うっ……。復讐のため、寝ずに鍛錬してできた、この指のママが……。自分の首を絞めることになるだなんて……。



冷静な声の男 : さて、ぼくは、次の案件があるので失礼する。彼の始末は……銅刃団の諸君にお任せするよ。

慌てた衛兵 : ……ハッ！ 事件屋男爵のお手並み、お見事です。ご助力、感謝します！

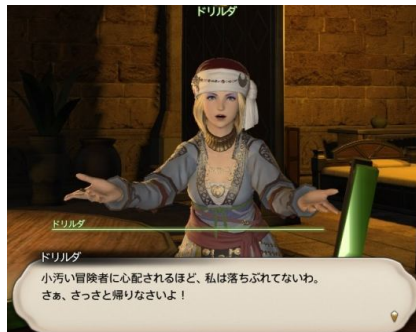
エリー : ヘえ、「事件屋」ねえ……。あの男以外にもいたのね。

ツツシ : 彼は、爵位を持ったイシュガルドの貴族なんですって！ 明晰な頭脳の持ち主で、どんな事件も解決しちゃうから、「事件屋男爵」って呼ばれているみたい。
この辺りには「ヒルディブランド」とかいう、変態男がいるみたいだけど……。さっきの彼みたいな、知的な男性のほうがいいわよね～。

エリー : ……ヒルディには……言わないでおきましょう。なんだか、面倒なことになりそうだわ。
さあ、バスパーベイまで花を渡しに行かなくちゃ。「契約の剣」を買った奥方の名前は「ドリルダ」さんよ。気に入ってくれるといいわね！

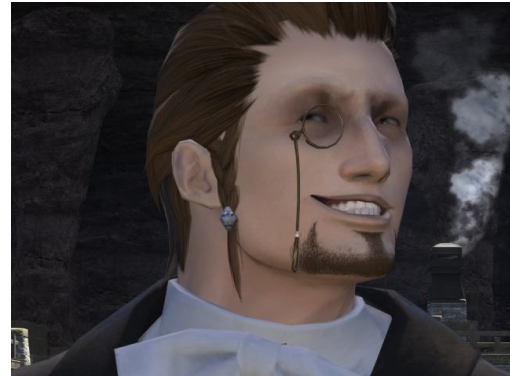
エリー : さあ、ドリルダさんにアルジクラベンダーを渡してもらえる？ 気に入ってくれるといいんだけど……。

ドリルダ : ああ、もう！ あんたも「契約の剣」について取材にきたわけ？
小さい冒険者に心配されるほど、私は落ちぶれてないわ。さあ、さっさと帰りなさいよ！
……とはいえ、私も鬼じゃないからねえ。それなりの「誠意」があるんだったら、話は違うけど？
なにこれえ、こんなもので私の機嫌をとろうっていうの？ アルジクラベンダーなんて、もう見飽きちゃったわよ。
私はね、高価な「骨重品」が好きなの。いつまでも変わらない美しさ……そう、私みたいだね。……さあ、帰ってちょうだい。

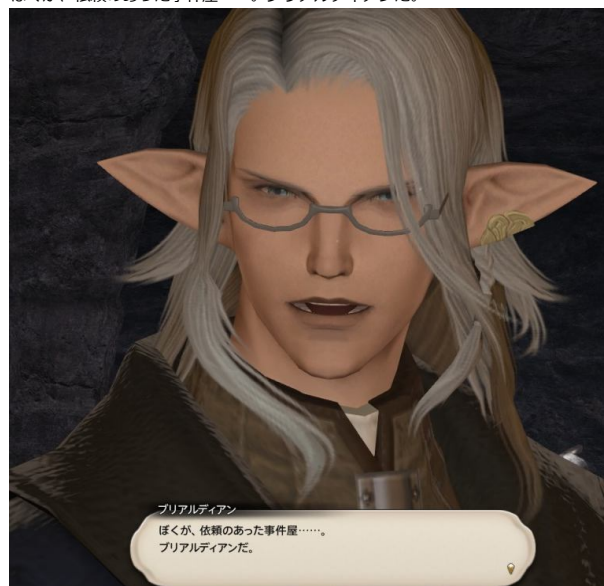


エリー : そ、そんな……。あの有名な「武器怪盗」が、次の標的として、ドリルダさんが買われた「契約の剣」を狙っているのです！
悪名高い武器怪盗の予告状、世間の関心も高まっています。一言だけでも、ぜひ取材させていただけませんか……！

ドリルダ : そんなの、知ったこっちゃないわよ……。これから「砂蠟衆」の要人がウチに来る予定なの。
あんたたちがいたら、邪魔でしょう？
あと……「武器怪盗」だったかしら？ そんな輩が現れたとしても、すぐに捕まるはずよ。ウチには自警団がいるからねえ。
それに、もしもの時に備えて、優秀な「事件屋」も雇ってあるのよ？
あら、噂をすれば、そろそろ来たみたいじゃない。超優秀で、超知的な、美形の事件屋さんが……♪



- ヒルディブランド** : 入港する船が打ち鳴らす、号鐘の間に間に……
解決を待つ事件の呼び声を……キャッチ！
事件屋ヒルディイイブランドゥ！ 武器怪盗を捕まえに、やってまいりましたぞ！
おや、奇遇ですな、冒険者殿！ このようなところにまで私に会いに来てくれるとは。……やっぱり、私のファン？
- ドリルダ** : ヒヒヒ、ヒルディブランドですって？ だっ、誰が大枚はたいて、変態を呼ぶもんですか！ 私が依頼したのは………！
- 冷静な声の男** : ……やれやれ。まるで、ぼくが金に釣られたかのように聞こえる。言葉には注意をしてくれないか？
ぼくは、自信家な怪盗の「予告状」に興味を持っただけさ。……調子に乗っている馬鹿な悪人には、きっちりと制裁を加えたい性分だね。
……ああ失礼、少々遅れてしまったようだ。道すがら、殺人事件をいくつか解決していてね。
- ブリアルディアン** : ぼくが、依頼のあった事件屋……。ブリアルディアンだ。



- ヒルディブランド** : 事件屋……ムリアルディアン！？
- ブリアルディアン** : ブリアルディアンだ。
君は確か、ヒルディブランド……だったかな？ 横のミコツテ族は、助手のナシュ・マカラッカ君だ。君たちも、事件屋を名乗っているそうだね。残念だけど……君たちのようなボンコツの出番はない。ひとりで十分さ、エオルゼアを守る「事件屋」はね。
さて、ぼくは、いろいろと準備があるので失礼する。奥方様、彼らにはお引き取りを願ってはいかがかな？
- ドリルダ** : 「契約の剣」が、ウチの金庫に収められるまでの間、我が家の自警団の指揮は、彼にお任せしてあるの。そういうわけだから、さっさと帰ってちょうだい。
……まったく、遅かったじゃないのよ、マリア。ちゃんと水を買ってきたんだろうねえ？

マリア： つつ……壺を……川に落として……。そのまま流れてしまって……。



ドリルダ： ハア！？ あの壺がいくらすとってるんだい！ ソーン朝時代の王家の品だったっていう、値打ちものの骨董品だよ！？
いつもピクピクして、情けない子ね！ どこまで使えない娘なの……。さっさと拾ってきなさい！

ヒルディブランド： むむっ……落ちついてください、ドリルダ殿。小さな子どもに遠出をさせるのは、とっても危険です！
壺の奪還については、我々におまかせあれ！
………このヒルディブランドの知的な計算によると、ドリルダ殿が大事にしている壺を回収すれば、
我々が捜査に参加できる可能性も……アップ！

エリー： ……まる聞こえよ。

ヒルディブランド： さあ、お嬢さん！ どこで壺を落としてしまったのですかな？

マリア： ウ、ウルダハで買った水を壺に入れて、帰る途中のことでした……。
魔物に壺を奪われてしまって……。あれよあれよという間に、壺が川に落ちてしまったのです……。
魔物は、ほかのものに気を取られたみたいでした……。川に落ちた壺が無事かどうかは、わかりません……。
ひ、拾いに行こうにも、下には魔物がたくさんいて……。……ご、ごめんなさい。

ヒルディブランド： そんな悲しそうな顔ばかりせずとも、大丈夫ですぞ！ 我々は、必ずや壺を取り戻して、マリア殿を笑顔にして差し上げましょう！

エリー： ああ、ごめんね。私は「事件屋ブリアルディアン」を取材しておくから。いってらっしゃ〜い♪

ヒルディブランド： あっ！ エリー殿、ぬけがけですな！？ ………取材ばかりしていると、顔にコジワが増えますぞ。

エリー： だから、まる聞こえよ！ コジワって何よ！ 私は記者なんだから、取材は当然でしょ！？ フン！

ヒルディブランド： ふーむ、では気を取り直して、壺の情報を探してみましょう！

エリー： ……また、詳しい場所を聞かずに！
マリアちゃん、案内してあげてくれるかしら？ ……まあ、きっと大丈夫よ。
なんというか……アイツには強運があるからね。

ドリルダ： あんたたち、いつまでウロウロしてるのよ。砂蠟衆の要人と大事な商談があるんだから、
さっさと、どっかいってちょうだい！

休憩中の商人： ああ、壺が川に落ちたのは見たよ。……ただ、その後しばらくして、何かが割れた音を聞いたなあ……。

センミン： 壺を探しているだって？ その壺かどうかは知らんが、何かが川に落ちて、下流に流れていったのなら見たぞ。
怪鳥がそれを追いかけていったのだが…… 戻ってきた時には、長い竿のようなものを持っていたな。あれは、なんだったんだ？



東方風の男： くそっ……足の裏に何か刺さって、いてえ！ ええい、これも全部、あのバカ鳥のせいだっ。
オレの大切な武器を持っていきやがって……！
……壺？ そんなもん知らねえよ、イデテ！

ヒルディブランド： 冒険者殿、何か探し当てましたかな！？ ……………あつ。

東方風の男： ……………あれっ？ この壺、オレが踏んづけて割っちゃったのか？
もしかして、お嬢ちゃんの壺だったのかい？ こりゃ、悪いことをしたなあ……。

ヒルディブランド： おや、訳知り顔の御仁。一体どこで何があったのか、教えていただけますかな？

東方風の男： オレはなんつーか……「旅の剣豪」でなあ。強者を探して、この辺りを歩いていたんだが、
怪鳥に襲われ、大切な武器を奪われちゃったんだ。
夢中になってクソ怪鳥を追いかけていたんだが、その時に、壺を踏んづけちゃったのかもしれねえ……。

ナシュ・マカラッカ： ……マリアさん、大丈夫ですよ～。ヒルディブランド様に、何か良い考えがあるみたいです！

ヒルディブランド： きました……きましたぞ！ この事件屋ヒルディブランド……。「壺がバラバラ事件」の解決策を、エスコートしましたぞ！
ひとまず、大きい破片は私が拾いましょう。皆さんは、散らばっている小さな破片を集めてくれますかな？

ヒルディブランド： そういえば前回も、水辺で探しものをしましたなあ。

東方風の男： なんだか、悪いことしちゃったなあ……。

ヒルディブランド： 壺の破片は集められましたかな？
おお、助かりましたぞ！ この破片があれば、元の壺も復元可能はず……。
そう、どんなにバラバラになっていても、あの人なら……。あの「エオルゼア最強の彫金師」ならば、可能はずです！

白髪 of 鬼

ヒルディブランド： バラバラになった壺を直すことができる彫金師…… それは「エオルゼア最強の彫金師」のみ。

東方風の男： 最強……。そいつは、強いのか？

ヒルディブランド： ……かつて、多くの宝飾品を盗んだ大規模な盗賊団が、一晩のうちに壊滅する、という事件がありました。
誰が壊滅させたのかは不明。しかし、倒れた盗賊団の武器にはすべて…… 「美しい彫金細工」が施されていたといいます。
倒れていた盗賊団の一人は、現場に駆けつけた銅刃団員に、こう告げました。「あれは、白髪の鬼だ」と……。

マリア： な、なんだか……怖そうです……。

東方風の男： ……………よし、オレもついていこう！ 壺を割っちゃった責任もあるし、
その「最強」っていう彫金師にも会ってみてえからな。

ギルガメッシュ： オレは旅の剣豪……その名も、ギルガメッシュ！ 改めて、よろしくな！
そんで、こいつはオレの相棒、エンキドゥだ！ ……ひとり旅が、ちよいと寂しかったもんでな。
ふん捕まえた鶏を染めて、昔の仲間の名前をつけたんだ。
ここら辺には、オレの宿敵もいねえようだし…… 武器が見つかるまでは暇な身だ。よろしく頼むぜ！



ビルディブランド : 私の名前は、事件屋ビルディブランド。よろしくお願いしますぞ、ギルキドウ殿！

ギルガメッシュ : ……色々混ざってるな。まあ、覚えられなかったら、ギルちゃんでもいいぞ。

ビルディブランド : ギルちゃん……素敵な響きですな。それなら私のことは、ヒルちゃんと呼びください！
さて、件の彫金師……白髪鬼ならおそらく、「ブルーフォグ」付近で魔物を倒し、素材を集めているはず。
我々も行ってみましょう！

ナシュ・マカラッカ : まだ、血痕が乾いていません〜。死んでから、それほど時間が経っていなさそうですね〜！
ドブランさんの顔って、可愛いですねえ〜。フフフ……。



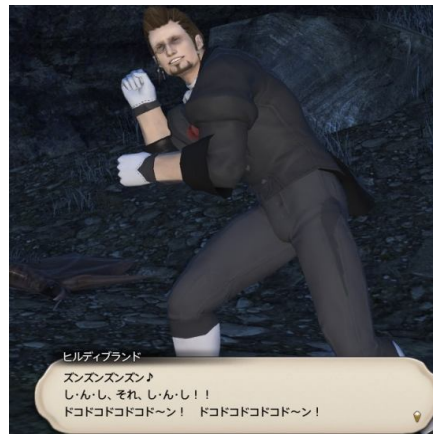
ギルガメッシュ : ふん……確かに、やべえ気配がするな。
脳天を一撃……か。こいつあ、なかなかの手だれだな。

ビルディブランド : まだ、温かいですな……。……そして、この彫金ハンマー。間違いありません、白髪鬼は近いですぞ。
ドブラン、バジリスク、そしてアーリマン……。しかし、白髪鬼の獲物は、こんなものではありません。
……おそらく、今回の獲物はあちらでしょう。
向こうにキマイラの死骸が見えます。あの近くに、「白髪鬼」がいるはずですよ……。
しかし、我々の追跡を警戒しているのでしょうか。姿を隠してしまったようですよ……。
……やはり、あの封印を解かなばなりませんか。
……白髪鬼をおびき寄せる手が、ひとつだけあります。我が家伝統の秘技、アレを使えばきっと……！
できれば使いたくなかった……でも、マリア殿のため！



ギルガメッシュ : ヒルちゃん家の、伝統の秘技……。い、いったい、どんなあぶねえ技なんだ……？

ヒルディブランド : ……行きますぞ！
ズンズンズンズン♪ し・ん・し、それ、し・ん・し！！
ドコドコドコドコ〜ん！ ドコドコドコドコ〜ん！



ギルガメッシュ : な、なんて……なんて珍妙な舞だ！

ヒルディブランド : ハア……ハア……これが我が家伝統の秘技…… 「紳士の舞」ですぞっ！
白髪鬼は、この踊りを知っているはずですよ……。これを見たら、必ず現れるでしょう。
しかし……アイタターツ、足をくじいてしまいました！ この舞は、冒険者殿……あなたに託しましたぞ！！

キケンな彫金師

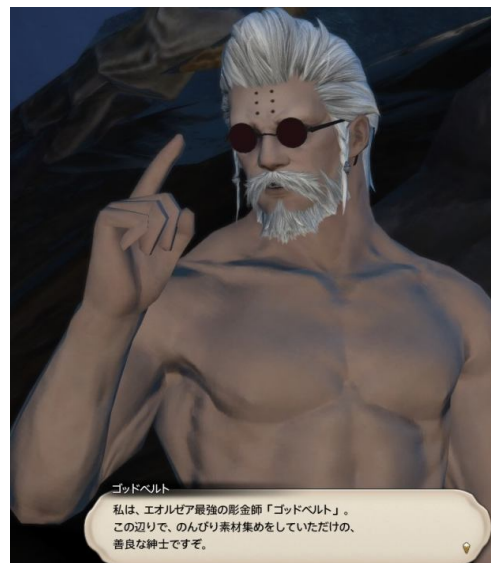
ヒルディブランド : さあ、あちらに倒れている魔物のそばで待機し、先ほどお見せした「紳士の舞」を踊ってください！
そうすれば、「白髪鬼」が現れるはずです！
私は……ちょっと足を痛めてしまったので、ここで、冒険者殿を応援してますぞ！

ナシュ・マカラッカ : 白髪鬼さんに会うの、楽しみですなぁ〜！

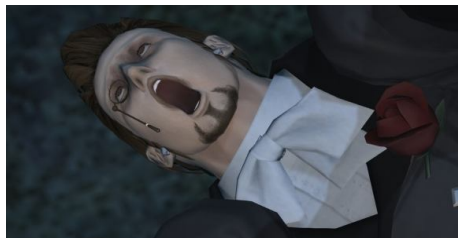
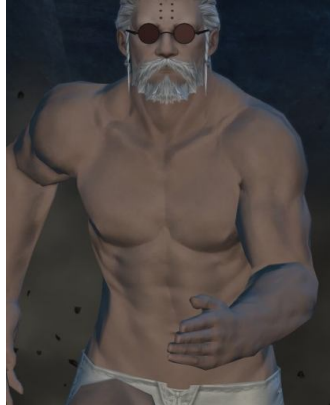
ギルガメッシュ : 白髪鬼……どんなやつだろうな。

???? : ……ホウ！ ただの冒険者ならば、無視をするつもりでしたが……。その舞を知っているとは……。

ギルガメッシュ : 現れたな……白髪鬼！



????? : ハッハッハ！ 安心して下さい。今のところ、あなた方への敵意はありませんぞ！
ゴッドベルト : 私は、エオルゼア最強の彫金師「ゴッドベルト」。この辺りで、のんびり素材集めをしていただけの、善良な紳士ですぞ。
……やっ？ まさかキミは、キャンプ・ブロンズレイクで出会った、油塗り上手の冒険者殿！？
しかし、なぜキミが、我が家…… マンダヴィル家の紳士の舞を？ まさかアイツが？ いや、そんなバカな……。
ああ、ザル神よ、これは夢でしょうか……？ お前はまさか……第七霊災で死んだと聞いていた……！
マンダヴィイール・メテオドライブゥ！
ホーーーーウ！ 我が愛息子、ヒルディブランド！ 生きていたのかー！！
10年前、お前が家出をして以来だ！ まったく、ノバもママも心配していたんだぞっ！？



ギルガメッシュ : む、息子！？ ……白髪鬼ってのは、ヒルちゃんの親父さんだったってのか！
ゴッドベルト : ああ、そうだ！ 感動の再会を祝して、またノバと一緒に、マンダヴィル家の特別な舞を踊ろう！
ヒルディブランド : ノバ……じゃなくて父上！ も、もう私は、子供ではないんですぞっ！ 私は……私は、立派な旅の事件屋！
今日だって、父上に会いに来たわけではないのです！ マリア殿の割れた壺を、直してもらいにきたのですぞ！

ゴッドベルト : ホウ！ さえない陶器の壺ですな！？ この程度なら、朝飯前のスクワット前！
ハッハッハ！ まだまだですぞおっ！？ ゴールドスミス、イノベーーーーーションッ！！
ピッカピッカ！ ツールツール！ ハッハッハ！ ……どうです、お嬢さん。これが芸術ですぞ！？



ヒルディブランド : あーっ！ 元の壺の柄と全然ちがいますぞ！ 父上、また勝手に装飾しましたな！？

ゴッドベルト : ハッハッハ、安心したまえヒルディ！ 家業を継ぐお前には、いずれこの秘術を教えてやろう！

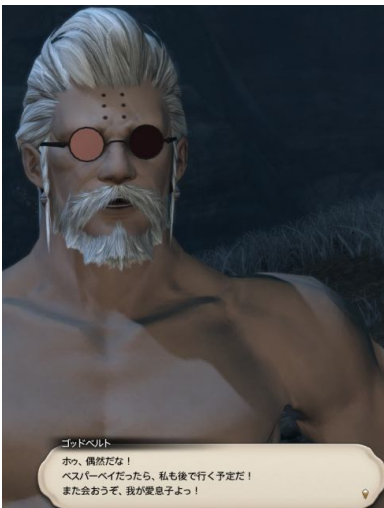
ヒルディブランド : ……父上、私は彫金師も宝飾商も継ぎません。私は事件屋として……困っている人を助けたいのです。
そして今は、この少女を救い、「武器怪盗」を捕まえることに、全力を注いでいるのですぞ！

ゴッドベルト : ホウ、まだそんなことを言っているのか……。ならば、その武器怪盗を、必ずや捕まえてみせたまえ！
さもなければ……ホッホッホウ……。

ヒルディブランド : そっそれは……それだけは勘弁してほしいですが……！ しかし、この事件屋ヒルディブランドに、
不可能はありませんぞ！

マリア : で、でも……。お母さまは、きれいな壺を貰ったくらいじゃ、「そーさ」の許可をくれない……と、思います……。

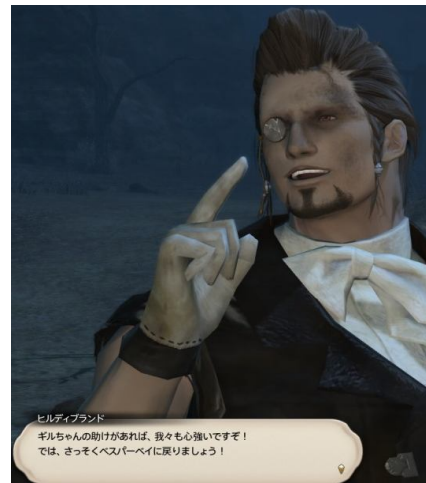
ギルガメッシュ : そんなツラすんなよ。ヒルちゃんは、なかなか見どころのある男だ……。
母ちゃんの機嫌も、うまくとってくれるだろうさ。
ヒルちゃんよ。お前の狙いは「武器怪盗」ってやつなんだな？
オレも怪鳥に盗られた武器を探すついでに、「武器怪盗」捜しも手伝ってやるぜ！
……エンキドウも、お前を気に入ってることだしよ。



ゴッドベルト
ホウ、偶然だな！
ベスパーベイだったら、私も後で行く予定だ！
また会おうぞ、我が愛息子よっ！



ギルガメッシュ
オレはちょいとばかり、この辺りで武器を探していく。
それが終わったら、お前さんの一行に合流しよう！



ヒルディブランド
ギルちゃんの助けがあれば、我々も心強いはずぞ！
では、さっそくベスパーベイに戻りましょう！

ヒルディブランド : ギルちゃんの助けがあれば、我々も心強いはずぞ！ では、さっそくベスパーベイに戻りましょう！

ゴッドベルト : ホウ、偶然だな！ ベスパーベイだったら、私も後で行く予定だ！ また会おうぞ、我が愛息子よっ！

ギルガメッシュ : オレはちょいとばかり、この辺りで武器を探していく。それが終わったら、お前さんの一行に合流しよう！

ヒルディブランド : さあ、マリア殿に壺を渡していただけますかな！？

マリア : ママ、喜んでくれるかな……。
ママ、壺を……。あの……。

ドリルダ : もう、うるさいわねえ！ もうすぐ砂蠟衆の要人をお迎えするんだから、早く出ていってちょうだい！
……フン、何よこの壺。どうせ安値で慌てて買ってきた、まがい物でしょう！？

エリー : ち、ちょっと！ 一生懸命に探してきた娘さんに向かって。そんな言い方って……！

???? : ホウ、まがい物……？

ドリルダ : ……あらやだっ、お恥かしいですわ！ もう、到着なさっていたのですね？
ほら、あなたたち頭が高いわよ！ このお方は、白のお髭の紳士様…… 砂蠟衆のおひとり、ゴッドベルト・マンダヴィル様よ！



ゴッドベルト : ドリルダ女史、本日の商談前にお聞きしたいのですが……。『私が修理した壺』は、お気に召しませんでしたかな？

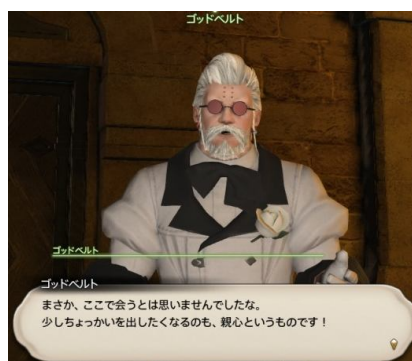
ドリルダ : ……えっ？ ご、ゴッドベルト様が修理なさった壺……！？
あ、あ、あらやだ、オホオホオホ！ とっても気に入っていたところですよ～！
ウ、ウチの家宝にしようと思っていたところですよ！

ゴッドベルト : ホウ、それはよかったですぞ！ 代わりといっはなんですが……
我が息子、事件屋ヒルディブランドを、武器怪盗の捜査に参加させていただけませんか？

ドリルダ : む……。息子おお！？ どどど、どうぞ、ぜひ捜査に参加してくださいませ！

エリー : あ、あんたの父親って、ゴッドベルト様だったの！？ 霊災復興のために多額の寄付をされて、
砂蠟衆に上り詰めた超大物じゃない！

ヒルディブランド : うーむ、長い間家を出ていたもので、砂蠟衆になっていたことは、私も知らなかったですぞ。
……ふむ、父上の助けを得てしまったのは無念ですが、とにかく、これで捜査への参加許可がありました。
ホニャララディアン殿のところに、現在の捜査状況について聞きに行きましょう！



マリア : ママ、受け取ってくれてよかったです……。！

ゴッドベルト : まさか、ここで会うとは思いませんでしたな。少しちょっかいを出したくなるのも、親心というものです！

ブリアルディアン : ……何のようだ。

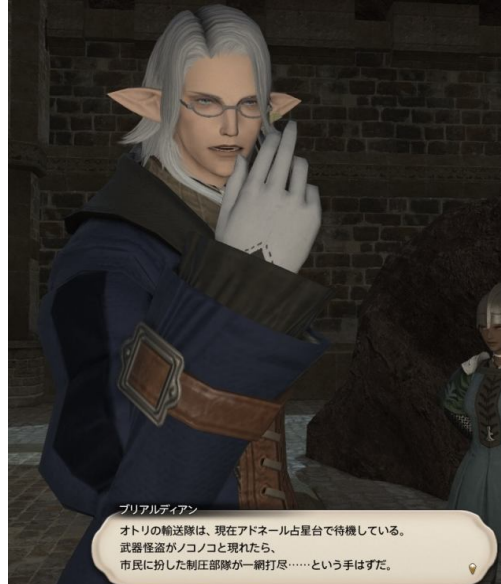
ヒルディブランド : ふっふっふ、私たちにも捜査への参加許可がでましてね。さあ、現在の捜査状況について教えていただけますかな？

ブリアルディアン : ……依頼人の許可があるなら仕方ない。やれやれ、馬鹿でも解るように説明してやるか。

古武器商のジョジョンバに依頼し、「契約の剣」の複製品を用意させた。

これを、自警団から選出したオトリの輸送隊に運ばせる。

オトリの輸送隊は、現在アドネール占星台で待機している。武器怪盗がノコノコと現れたら、市民に扮した制圧部隊が一網打尽……という手はずだ。



ナシュ・マカラッカ : それじゃあ、本物の剣はどこにあるんでしょう？

ブリアルディアン : 本物は、クルザス某家の金庫の中だ。武器怪盗を捕らえるまで、外に出すつもりはない。

すべての手はずは整っている。お前たちの出る幕は、まったくないが……。

……まあ、オトリの輸送隊付近で、不審人物を捜すくらいなら、やってもいいだろう。

ヒルディブランド : 不審人物捜しなら、ヒルディブランドにおまかせあれ！ では、武器怪盗の特徴について教えていただけますかな？

エリー : それなら、例の「二セ光の戦士」ハンフリーに聞いておいたわ。武器怪盗は「槍で戦う、赤い頭巾を被った男」だそうよ。

ヒルディブランド : ハッハハハ、それはわかりやすい不審人物ですな！ すぐにでも見つけられそうですぞ！

ブリアルディアン : ……御託はいい、さっさと行け。ぼくもすぐ向かう。

エリー : それじゃあ、アドネール占星台で会いましょうね。

聞き覚えのある声 : おーい！ 遅くなっちゃって悪いな！

ヒルディブランド : おお、ギルちゃん！ ちょうど今、武器怪盗を捕まえるために、クルザスの「アドネール占星台」に向かうところでしたぞ！

なんでも、武器怪盗は槍で戦って…… ええと……赤い……赤い……。

そう、赤い布巾を持った男だそうです！

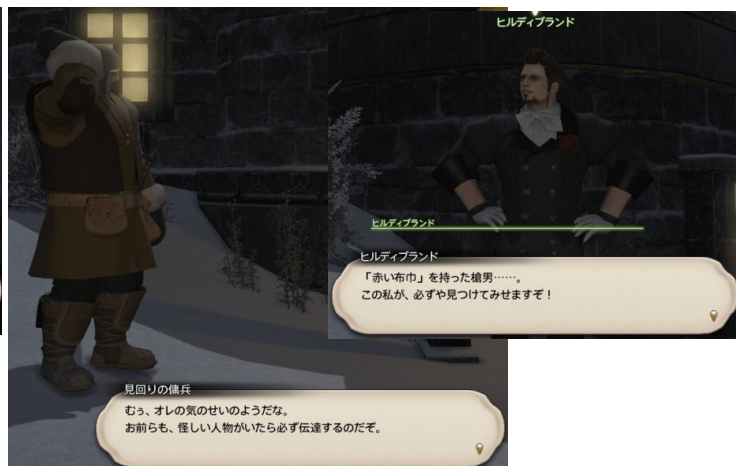
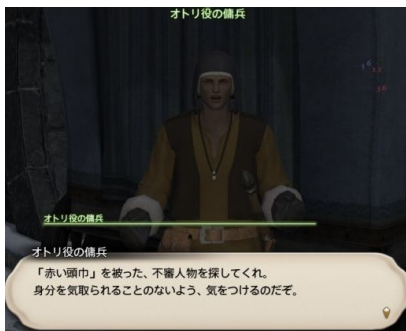
ギルガメッシュ : あ、赤い布巾を持った槍男……？ なんだかよくわからんが、ダサそうなやつだなあ！

ヒルディブランド : まったくですなあ、ハッハハハ！！



天下無双の挑戦者

- ヒルディブランド : さあ、さっそく我々も、クルザスの「アドネール占星台」に向かいますぞ！
まずは、現地でオトリ役をしている傭兵殿に、状況を聞いてみるとしましょう！
- ギルガメッシュ : はあ、結局、武器は見つからなかったぜ……。気を取り直して、クルザスってどこに行くか！
- オトリ役の傭兵 : ドリルダ殿の自警団の方ですか？ 雪原での任務、ご苦労さまですぞ！
しかし、私が来たからには、大船に乗った気持ちで……。
- オトリ役の傭兵 : なんだ、貴様らは。我々は特務の最中だ、気軽に話しかけるでない。
- ブリアルディアン : ……依頼主の意向で、捜査に参加させることになった。適当に、周囲の見まわりでも指示してやれ。
ぼくは、全体の指揮が忙しい。……くれぐれも邪魔はするなよ。
- オトリ役の傭兵 : ブリアルディアン殿、お待ちください、確認事項が……。……むむ、行ってしまわれたな。
私は男爵殿に話をしてくる、この場は貴様らに頼むぞ。
- ギルガメッシュ : すっげーなあ！ ここは一面雪なんだな！
ようし、不審人物を探しがてら、オレも自分の武器を探してくるぜ！
- オトリ役の傭兵 : ……待たせたな。不審人物は現れなかっただろうな？
- ヒルディブランド : ええ、残念ながら。しかし、まだ捜査は始まったばかり！ 私の2つの目は、必ずや不審人物の姿をキャッチしますぞ！
- オトリ役の傭兵 : ……………。そういえば、見回りの傭兵が怪しい人影を見たと言っていた。
君たちは、彼に話を聞いてみてくれないか。
「赤い頭巾」を被った、不審人物を探してくれ。身分を気取られることのないよう、気をつけるのだぞ。



- ヒルディブランド : 「赤い布巾」を持った槍男……。この私が、必ずや見つけてみせますぞ！
- 見回りの傭兵 : ううむ……。この辺りに、赤い人影が見えたような気がするんだが……。
むう、オレの気のせいのようなだな。お前らも、怪しい人物がいたら必ず伝達するのだぞ。
- ナシュ・マカラッカ : ……あつ、ヒルディブランド様〜！ あそこに赤い人影がいますよ〜！
- ヒルディブランド : な、なんですと！？
- ギルガメッシュ : ……あの怪鳥、武器を盗っていったやつに似てるな。
ん……。ヒルちゃん、どうかしたか？
- ヒルディブランド : な〜んだ、ギルちゃんでしたか。この辺りにも、武器怪盗はいなさそうですね。さあ、ほかをあたってみましょう。
- ヒルディブランド : ふむ……。この辺りにも、「赤い布巾」を持った人物は見当たりませんなあ。
- エリー : どう、武器怪盗は見つかった？
- ヒルディブランド : このヒルディブランドの登場に怖気づいたのか、まだ、姿を現す様子はありませんな。
- エリー : そうねえ……。もうちょっと外に探しに行ってみれば？ ……でも、武器怪盗は決闘好きだから丸腰じゃ危険かしら。
行くなら、何か武器でも持っていくことね。

ヒルディブランド : ふむ、武器ですか……。

ナシュ・マカラッカ : ヒルディブランド様～！ ナシュも戦います～！

ヒルディブランド : むむ、ナシュ、その槍は……！ ……第七霊災の際、私がなくした槍ではないですか！

ナシュ・マカラッカ : その雪に埋まってました～！



ヒルディブランド : ここで再び会ったのも、何かの縁かもしれませんな。ナシュ、その槍は私が大事に使うことにしましょう！
「運命の槍」も戻ってきたことです！ アドネール占星台の東で、不審人物がいないか探してみることにしましょう！

ナシュ・マカラッカ : 雪、冷たいですー！

ヒルディブランド : フッフッフ……。武器怪盗、どこからでもかかってきなさい！
ううむ、誰も来ませんな……。

ギルガメッシュ : はあ……オレの武器も見当たらねえ……。武器を盗んだ怪鳥の姿が上空に見えたから、かなり近くにあると思うんだがなあ。
……お前も、そう思うだろ？ エンキドウ。

ヒルディブランド : そういえば、ギルちゃんが探しているのは、どのような武器なのですか？

ギルガメッシュ : えーとなあ……柄が紅くて……。
先っぽに斧頭がついて……。
それに銃口もついてる、そりゃあイカした槍だよ。
オレが、エオルゼアに来たばかりのころに拾ってな。なんでも「ガンハレバード」っていう、最強の槍らしいぜ？
あれ……？ ヒルちゃんの武器……。オレの探してる槍にそっくりだな……。
……って、オレの槍じゃねえか！？



ヒルディブランド : イ、イヤイヤ、そんなことはないと思いますぞ。この槍は5年前、私が持っていたものですからな。

ギルガメッシュ : ま、まさか、ヒルちゃんが落とした槍を、オレが拾ったってことか！？
でも、拾ったのはオレなんだから、オレのものだよな……。！

ヒルディブランド : ギ、ギルちゃんといえど、渡せませんぞ！ この槍には、いろいろ思い出が詰まっています……。

ギルガメッシュ : ま、まあ、いいからちょっと手を離してみろって……！

ヒルディブランド : ギ、ギルちゃんが先に手を離してくれませんか……！？

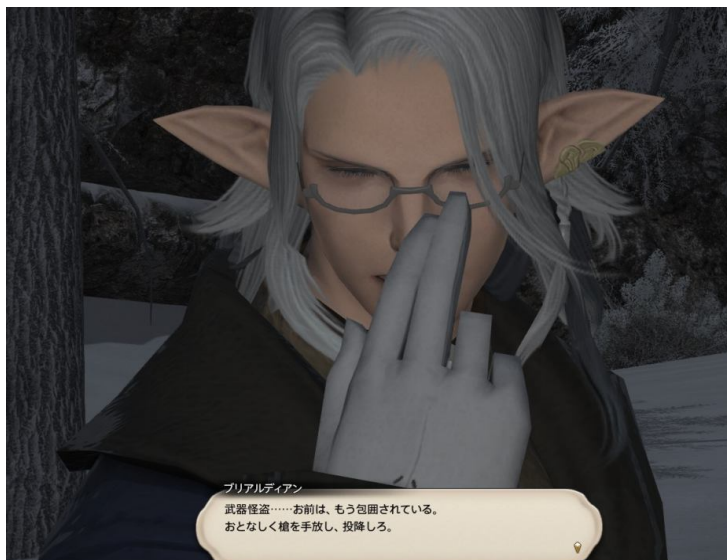


エリー : ち、ち、ちょっと、ヒルディ！？ 長い槍に、赤頭巾……！！
どう見てもそいつが「武器怪盗」でしょうが！

ヒルディブランド : ハッハッハ、何をおっしゃる、エリーどの。……彼は武器怪盗ではなく、ギルちゃんですぞ？ そんな悪党とは違います！

ギルガメッシュ : 見知らぬ姉ちゃんよ、ヒルちゃんの言うとおりだ。オレは強いやつと戦いたい、ただの「剣豪」……。
武器を盗んだことなんて、一度も無いぜ？
これまで集めた武器は全部…… 勝利の証として、ちょっと貰ったものだけだ！

ブリアルディアン : 武器怪盗……お前は、もう包囲されている。おとなしく槍を手放し、投降しろ。



ギルガメッシュ : まったく、何だっていうんだ。とにかくオレは、こんなところで捕まるわけにはいかねえ！
アイツと決着をつけるまではな！

ヒルディブランド : ギ、ギルちゃんが武器怪盗だったことは、私の推理どおり！ このまま、ギルちゃんを捕まえますぞー……！！

ブリアルディアン : ……作戦どおり、南に逃げた。あの先は行き止まり……閉鎖中の「グリフィン大橋」だ。
この中で最も実力があるのは、冒険者である君……。寄せ集めの自警団より、勝利の確度が高いことは明らかだ。
ぼくは自警団を指揮して、引き続き「契約の剣」を守る。武器怪盗の始末は……君が引き取ってくれるかな？

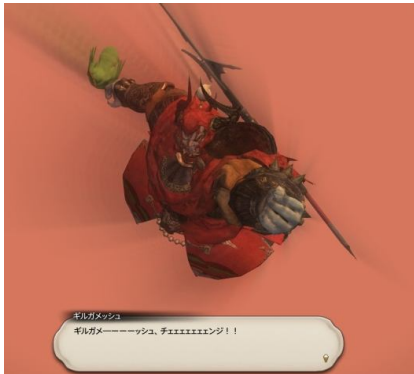
ナシュ・マカラッカ : ヒルディブランド様、待ってください～！

エリー : ついに、あの武器怪盗の姿を見ることができたわ！

ブリアルディアン : ギルガメッシュはグリフィン大橋に向かった。大至急、追ってくれ！

ヒルディブランド : ぐぬぬ、あと少しのところで、ギルちゃんに振り抜かれてしまいましたぞ……。
冒険者殿！ どうか、ギルちゃんを止めに行ってください！

ギルガメッシュ : この扉の裏で、ずっと待っていたぞ！ 来なかったらどうしようかと、不安になっていたところだ！
オレがここに来たのは、逃げ込んだからじゃねえ！ ここなら……お前とゆっくりと戦えると思ったからだ！
オレの直感では、お前は歴戦の勇士！ ならば、挑戦してその武器をいただくまでよ！
最強の槍も戻ってきたことだし、初めから本気でいくぞ！？
ギルガメ———ッシュ、チエEEEEEEEEンジ！！



ギルガメッシュ : 行け、エンキドゥ！ 大好物の蛙だぞ！
ギルガメッシュ : オレが悪かった……。
ギルガメッシュ : 8人でござれちゃ……。
ギルガメッシュ : 手も足もでないぜ……。
ギルガメッシュ : ……てのは、ウソだけだな！！
ギルガメッシュ : こいつを食らえっ！ うおおっ！ メガフレアっ！！
ギルガメッシュ : ……ありゃ？ メガフレアが出ない？ 最強の槍じゃないのかー！
ギルガメッシュ : 急用を思い出したぜ！！ 必ず戻って来るからなっ！
ギルガメッシュ : も、もういいだろ！ お前らしつこすぎだぞ！
ギルガメッシュ : ……上等だぜ。このギルガメッシュ様を倒せるかな？
ギルガメッシュ : しぶといヤツらだぜ……。

ギルガメッシュ : 今日のところは これくらいにしといてやる！
おぼえておきな！ ペっ！



ヒルディブランド : ギルちゃん、なかなかの手だれでしたな……。

ナシュ・マカラッカ : ヒルディブランド様、大丈夫ですか〜？

エリー : 武器怪盗が盗んできた武器が、いくつか落ちていたそうよ。ヒルディが拾い集めてくれたの。
そうそう、エレザルさんの「大地の剣」もあったから、あとでこっそりエレザルさんの家に行って、複製品と入れ替えておくわね！

ブリアルディアン : ……やったか。フン、ぼくの見込みに狂いはなかったようだな。
さあ、ベスパーベイに戻っていきな。ぼくは、本物の「契約の剣」を金庫から出し、ドリルダ殿の元へ運んでおこう。

ドリルダ : これが「契約の剣」……ああ、なんて素敵な剣なの……。早く私のコレクションにいれてあげないとね〜！
ウフフフフ〜♪



ブリアルディアン : 武器怪盗か……大したことはなかったようだな。
君の報告から導き出される結論は、ただひとつ。奴はもう現れることはない……そういうことだ。

ナシュ・マカラッカ : 事件は無事解決です〜！ でも、ギルガメッシュさん、とってもいい人だったから、なんだかちょっと、さびしいですねえ〜。

ドリルダ : あら？ ここにいたのね。事件屋が船で戻ってきたって連絡があったから、せっかく船着場まで迎えにいったのに……。
皆さん、どうしたのかしら？ そんなことより、早く「契約の剣」を見せてちょうだいな。



ナシュ・マカラッカ : むむ〜？ 渡したはずなのに、おかしいです〜。まるで、さっきのドリルダさんとは別人みたいです〜。

ブリアルディアン : これは……まさか、変装用のマスクか……？ それじゃ、我々が剣を渡した人物は…… 偽物だったというのか……！？
おかしい……。武器怪盗だったギルガメッシュは、冒険者が撃退したはず。
ならば、ドリルダさんに変装していた人物は誰なんだ？

エリー : 今回の事件の発端は、「契約の剣」を奪うという、一枚の予告状だった……。
でも、冷静に考えてみれば、武器怪盗…… ギルガメッシュの犯行手口とは、やり方が大きく違う……。
……つまり、「予告状の人物」と「武器怪盗」は別人！？

ブリアルディアン : なるほど……「予告状の人物」は、武器怪盗の騒ぎを利用して、ぼくたちの警戒の矛先を変えさせていたのか！

エリー : それじゃあ、予告状を出した人物っていったい……？



ビルディブランド : やっ！ この見覚えのあるカードは……。今度こそ……ファンレター？

ブリアルディアン : ……ッ！ よこせ！
『我が名は怪盗白仮面……400年前に生まれし亡霊。 眠りから目覚めた時、汚れし遺物を求めて荒野を彷徨う。
次は、るり色の乙女の唇をいただきに参ります。』
か、怪盗白仮面……だと？ ……チツ、新たな怪盗のお出ましということか。

エリー : ……これ、前回の予告状と同じ絵が描かれているわ！ ドリルダさんに変装して「契約の剣」を奪ったのも、
この予告状の人物……怪盗白仮面だったのね！

ビルディブランド : おのれ、怪盗白仮面！ この「私」に、またも予告状とはっ！

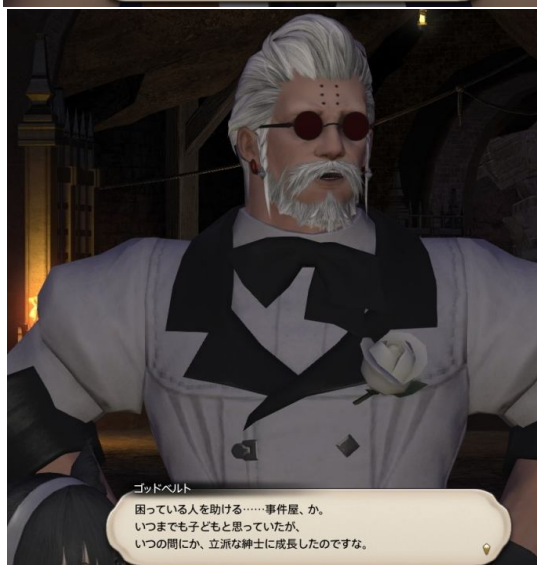




ブリアルディアン : 待て、このボンコツ事件屋！

マリア : ……ぷつ。あは、あはははははは！

ドリルダ : 人の大事なものが盗まれたっていうのに、アンタたちは！
……ちょっと、マリアまで！ 何を笑ってるのよ！
プッ……マリアったら笑いすぎよ、あはは！ なによ、アンタって、そんなに幸せそうに笑えるのね！
すごく可愛いじゃない、あははは！
あはは、花や骨董品より愛おしいものが、こんなに近くにあったなんて……まったく蒐集家、失格だわ！
あはは、あはははははは！



ゴッドベルト：困っている人を助ける……事件屋、か。いつまでも子どもと思っていたが、
いつの間にか、立派な紳士に成長したのですな。

ビルディブランド：怪盗白仮面……！！ この「事件屋ビルディブランド」が、捕まえてみせますぞー！！

怪盗白仮面が狙う次なる標的は なんと乙女の唇！
交錯する謎の迷宮は 植物界の陰謀をも覚醒させる！
青い海と空のもとに描かれた愛のかたち……そして真実とは！？
次回「るり色の婚約者」
私もお嫁さんを募集中ですぞ！





ナッシュ・マカラッカ： 今度の事件解決の鍵は、赤いゴーグルです～！ 銅刃団の、とっても強い精鋭さんたちが着けているんですよ～！
でも、事件当日まで何が起こるかわかりませんっ！ 実際の事件現場を目撃することになるのは……
アナタですよ～！